



南雲和夫

地域の活性化とまちづくりに童画美術館を駅東口側に建設を

町は「雪国館」の増改築で

地域活性化のためにも拠点となる童画美術館を越後湯沢駅東側に建設を望む請願書が今議会に、中央商店街共同組合、東口活性化委員会を始め東口6町内会長から提出されております。この地域は文化歴史が集積されている地域であり、町づくり地域づくりの観点から地域経済の活性化が望まれている地域でもあり、新しい観光の切り口、交流拠点として町全体の発展に繋がるものと期待されています。

質問

地域交流をはじめミニコンサート、イベント等、文化の交流拠点となるよう町民による組織づくりと施設の工夫は欠かせないものと考えており、目的に適応すべく準備と将来像を示す必要がある。また、平成15、16年に6000万円で購入した日本画を購入、さらにはリニューアルに1000万円を要した町のもくろみは「雪国館」の入場者数、収入に効果として反映されていない。美術館建設基金の運用は「雪国館」との連携も視野に、童画のまちづくりとの相乗効果から、駅東口側の建設は請願者の目的に資すると考える。

町長答弁

雪国館の増改築で町の方

向は9月定例議会において示している。大きなスペースを有効活用し、発表の場やその他イベント等を含めて活用したい。また入り込みが落ち込んでいる「雪国館」の来館者が増えることにより指定管理者制度の導入もより受け入れやすい状況となる。質問者とは見解の相違があり応えられない。駅東口側建設については多くのいろいろな意見をいただいているので検討はしたい。

減収と経常経費増により新規の投機的事業は困難

23年度予算編成は1億5000万円からの減額を想定

質問

平成23年度予算編成に臨

む基本姿勢と新規事業は何か。

町長答弁

平成23年度予算編成については町、町税収入が22年度と比較し7600万円程度減額になる見込みである。経常的経費として、マンシヨンのゴミ処理費が6000万円程度の増、福祉関係経費の自然増が1500万円、それだけでも前年度比較で1億5千万円程の圧縮予算となる。

建設関連事業では文教施設整備。三俣振興対策。湯沢貝浄化センターの整備。南魚沼市関連で消防本部施設整備の事業計画及び魚沼荘改築計画が予定されているなど、厳しい財政状況に加え大規模事業が計画されている。予算要求で職員に通知し

た内容は厳しい財政状況を踏まえ、原則として新規の投資的事業を認めない方向であり、新規要求は優先順位の明確化。継続実施事業の事業評価の徹底。事業の実施には効果を再検討し事業に終期を設定するなど既得権的事業の執行は行わない。国等の補助事業の枠外単独事業の要望は行わないこととしたい。

23年度の主な新規事業は、統合施設整備関係で施設設計、旧高校の解体、湯沢、土樽、三俣小学校体育館の耐震化。マンシヨンのゴミ収集、大源太のトイレ改修、カルチャーセンターの外壁改修、中央公園グラウンドの公認整備、道の駅整備、教育課へ管理主事を配置、総合計画システムの入替え。他に小児の髄膜炎などを防ぐヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンの予防接種等が考えられている。

童画美術館と、平成23年度予算編成について

一般

質問

質問